



国民不在の政治!! 与党も野党も反省を

4月1日、34年間続いたガソリンの税金（道路を造るための目的税）が、自民党と民主党の対立で失効し、ガソリンの価格は下がったが、そのために市町村の進める道路事業凍結は36道府県に及ぶ。道路だけではなくそのしわ寄せは福祉や教育部門にも及ぶ。石原都知事は失効が長引けば、独自課税も検討しなくてはならないと表明する。

昭和28年、国民の福祉と生活向上のために、道路整備を迅速に行うために、時の田中角栄先生が中心となり、財源確保のために議員立法により法律がつけられ「揮発油税」が道路特定財源となった。

この期限切れは、一年も前から解っていたことだし、今の政治情勢を考えれば対応を誤った自民党も情けない。そして、一ヶ月間も参議院で審議しない民主党もおかしい。現場のガソリンスタンドは大混乱している。赤字覚悟で値下げし、いつ又価格がどうなるかわからない。これが政治だろうか…。

確かに、道路特定財源の、あきれほどの不適切な使用や無駄遣いには腹が煮えくり立つ。しかし、当市でも暫定税率分5億5千万円余りを見込んで、平成20年度予算はスタートした。もし今月中に国会において再可決復活しないと、6月議会で予算の組み替えを余儀なくされ、行政に大きな支障が出ることは必至だ…。

自民党も道路特定財源は一般財源化すると明言したし、民主党も「地方には迷惑かけない」と言っているのだから、両者が張り合うのでなく真に国民のための政治をと、願わずにはいられない…。”常に民のために政をした「直江兼続公」が、嘆いている”

※道路特定財源は5兆4千億円（国3兆3千億、地方2兆1千億）、本則税率分2兆8千億円・暫定税率分2兆6千億円（国1兆7千億、地方9千億）



政治は子ども達の未来のために!!

3月議会～20年度一般会計予算288億7千万円（前年比2.4%増）

3月議会は予算議会とも言いわれ、4日～19日までの16日間の会期でおこなわれた。今年度の予算も実質公債費比率が24.6%と、2年連続県下ワースト1という厳しい中での予算編成内容です。

20年度の主要施策は、①教育環境の充実②子育て支援の充実③コミュニティ活動の推進④大河ドラマ「天地人」プロジェクトの推進⑤2009年国体の準備（テニス会場、自転車ロードレース会場）⑥財政健全化の推進を重点として予算編成する。

本3月議会に学区再編検討委員会の中報告がなされ、今後10～15年先を考えた学区再編の考え方が示された。そして、20年度予算に五十沢地区小学校統合は、五十沢中学校に「合築」という調査設計費2800万円が計上される。中間報告の途上でもあり早計だ。議会軽視ではないか等々多くの意見がでる。本議会開会中に学区の問題で、総務文教委員会が3回招集され「学区再編議会」と言う感もした。

学区再編問題は、子どもの少子化問題だけでなく「地域の活力・地域の振興」と言う面からも難しい課題だが、先送りすることは出来ない重要な問題です。そして南魚沼市全体の問題でもある。

● 一般質問 ●

農業振興について

中国製冷凍餃子の農薬混入による食中毒事件は日本中の台所を震撼させ、いまだ事件の真相が究明されていない。命に関する問題にもかかわらず、又かと言う思いを禁じ得ない。こういう事が繰り返し起きると言うことは、日本の経済政策が農業ではなく工業に軸足を置いているからで、日本の資源を考えればその事は理解する。だからといって、健康や命が脅かされることがあってはならない。

地球規模での農産物の流通はこれからも続く。だから、日本の農業政策がしっかりしなくてはいけない。国は毎年食糧自給率の向上を掲げるが、ついに40%を割り込んだ。私たちの胃袋を命を食卓を外国に依存しているのか。

そこで、三点について伺う。

(1) 農政について

新基本法農政は、品目横断的政策で政策対象を「担い手」、個人は4ヘクタール、集落営農は20ヘクタールに絞り込み生産現場は大混乱した。ところが昨年参議院選挙で自民党が敗退すると今度は「農政の見直し」だ。まさに猫の目農政…。

なぜ米価が下がるのか。それは消費の減退やミニマムアクセス米の累積があるが、一番の原因は過剰作付だ。米価下落の下では、大規模農家は背に腹は代えられないとして過剰作付に走り、非「担い手」農家は、国の恩恵が得られないから米は自由に作ることになる。

過剰作付の解消には、大面積・小面積と言った選別政策は止めて、全員が生産調整に取り組む仕組みを作らなくては解決しない。

「生産調整の実施」と「担い手の支援」は別立てで考えることが必要と思うが市長の考えは。

(2) 集落営農の推進について

今は世界中どこからでも輸入でき、人工着色料・



飼料の高騰により危機的な畜産経営!!

人口甘味料・殺菌剤・保存料の技術を駆使すれば、劣化した食糧でも美味しい食品として食卓に載せられる時代で、米もそれらの技術を駆使すれば、魚沼コシヒカリの味のご飯も可能だ。

そういう時代なので、新鮮・安全・安心・美味しい米の生産は当たりまえ。それに消費者は低価格の米をも求めている。そのためにも、米作りは、集落営農によるコストの低下は必要不可欠だ。地域担当性を設置して法人化や集落営農の推進に務めているが、本物の法人化や集落営農の設立がなかなか進まない。

現状は「交付金すなわち助成金をもらうための集落営農」になっていないかということだ。

(3) 畜産振興について

昨年の9月の一般質問で「水田農業の将来について」と言う中で、耕畜連携と言う視点から畜産振興について問うた。

解答で市長は、「具体的に畜産についてどういう方法をとればいいのかというのは、まだ具体策は持ち合わせておりませんが、畜産振興協議会のかたからもご相談にお出でいただいておりますので、ある程度発展をして存続していきけるような環境、そういうものを市として考えなければならぬ、という思いです」と話した。その半年前よりも畜産の環境は悪化し、飼料の高騰により生産コストが適切に価格転嫁されない中、17戸の畜産農家はかつてない危機的な状況にある。

このままでは数年後には、南魚沼市生産の肉、牛乳が食卓から消える。この現状をどのように考えているのか伺う。

1月9日 第4回毘沙門通りワークショップ



大和商工会新会賀詞交歓会



1月10日 大和商工会賀詞交歓会

1月24日 道路特定財源確保国会訪問



2月9日 深谷市友好都市議員交流会

トピックス

〈市長答弁〉

小規模農家が多いので見直しは歓迎する。小規模農家も大規模農家も生産調整を100%する事が、米価が安定し農業の将来が見えることになる。生産調整の実施と担い手への支援は全く別立てと言うことはむずかしいと思うが……。

米作りでコスト低減は不可欠だし、進めなくてはならない。助成金をもらうための組織作りであってはならないが、農業所得向上のためにその制度は大いに利用する。

抜本的な支援は、市のみでは解決出来なく国県に強力に働きかける。今は大変な状況ですので、畜産農家の皆さんと話し合いをもつようにする。

浦佐市街地のどまん中のKCK跡地



現在は所有者の理解を得て、裸押合い大祭やイベントの駐車場として活用している。

一昨年の1月に市の担当と三菱マテリアルを訪れ当社の利活用や今後について相談した。ところが昨年の秋に突然その土地が売りに出された。もし、民間企業が取得し、進出業者によっては、地域住民や地元商店街、青少年の健全育成等に多大な影響をおよぼしかねない…。

ご承知の通り、当該土地は私どもが学んだ浦佐中学校の跡地であり、その後KCK工場として大和町時代の中心企業として多大な貢献をした場所だ。

学舎の面影も残っており、当該地は地域住民にとって思いで深い大切な場所だ。旧大和町時代、住民の強い要望により当地の取得について相談したが、諸般の事情で実現できなかった。

毘沙門様を中心とした町づくりを考えたとき、KCK跡地の利用を抜きにしての浦佐の将来はありえない。

浦佐区会でもその動きに反応し、1月1日付けで浦佐地域全戸にKCK跡地の活用についての提案も含めチラシを配布した。

当該土地は、浦佐中学校跡地と言う歴史的経過や浦佐地域毘沙門通りの活性化と発展を考えたとき、市が取得し、地域住民と一体となったまちづくりを進めることが、大切と思うが市長の考えを伺う。

「KCK跡地の活用」について

毘沙門堂裸押合い大祭に、井口市長を始め幹部職員の皆さん、そして峠議長を始め大勢の議員諸氏の皆様から参加いただき感謝いたします。

その毘沙門様通りの本町商店街の有志の方々为中心となり、昨年5月に毘沙門通り生き生き再生懇談会を設立し、毘沙門様を核としたまちづくりの話し合いをスタートさせた。

県からは「景観づくりモデル地区」事業の指定を受け、5回のワークショップ、話し合いを開催した。常に女性の参加が6～7名あり、毎回30～40名の参加者で、活発な話し合いが展開された。最後のワークショップが2月6日に開催され、毘沙門通りの街並みづくり、通りの整備イメージ等、街づくりの方向が見えてきた。

そのワークショップの中で、浦佐市街地のどまん中にあるKCK跡地の利活用が大きく浮上してきた。毘沙門様を核とした浦佐西山市街地の活性化と発展のためにも必要不可欠だとの声だ。

そのKCK跡地は今(株)三菱マテリアルが所有しており、面積は7000平方メートルで更地となっており、

〈市長答弁〉

土地の取得はむずかしい問題ですが、なるべく早いうちに具体的な活用の方向を、地域の皆さんで、提案いただければ市として取組みを検討する。

2月19日 つくば市行政視察



3/22 地域医療を考える

3月5日 大和中学校卒業式



3月30日 第63回浦佐婦人会総会



●魚沼基幹病院が開院（平成27年）すると、大和病院が無くなるのでは…！

今まで長岡や新潟に行かなければ出来なかった重い病気を治すのが基幹病院で、すなわち三次救急（脳卒中・心疾患・新生児・精神）と産科を中心とした入院医療です。風邪を引いたとか、足を切ったとかの外来患者を診療する病院ではないです。そして、現在大和病院に入院している皆さんは慢性期の患者さん達で、慢性期の患者さん達は基幹病院の入院対象ではありませんので、大和病院が無くなることはありません。

●魚沼市議会に比べ当市の議員数が多いのではないかと

魚沼市は（人口43,000人）25人、当市（63,000人）は30人です。議員定数は地方自治法に定められており5万人未満は26人、5～10万人は30人と上限が決められており、南魚沼市は上限の30人です。経費の節減のためにも削減は必要という声と市民の声を幅広く聞くためにも削減は反対等々いろいろの意見があります。

本3月議会で議員発議で「議員定数調査特別委員会」が設置され、今年度11月30日までに調査結果をまとめることとなります。9名で構成される委員に大和地区では山田勝、佐藤剛議員が選任されます。

市民の声…よくある疑問・質問

●市は金が無く大丈夫…！市の財政が破綻しないだろうか？

いくら立派なことを言っても、財政の安定なくして市民サービスは出来ません。市政の一番の課題として取り組んでいます。確かに実質公債費比率が24.6%と県下ワースト1ですが、その中身は下水道事業で4.9%、水道事業で4.1%となっており、市民生活に欠かせない事業での借金ですのでご理解下さい。今年の予算も緊縮予算ですが20年度からはその比率も下がる計画です。財政健全化に向けて市を挙げて一丸で取り組み中です。ご安心を！（注：25%以上になると一般事業等の起債が制限される。18%以下が適正指標）

●直江兼続公主人公の大河ドラマ「天地人」が、来年NHKで放映されるが、市民の盛り上がりがなく、受け入れ態勢は大丈夫なのか！！

完成したパンフレット



確かに大河ドラマ効果はすごいものがあり、全国から50万人とか100万人が南魚沼市を訪れる…。経済効果はと胸算用をはじく人もいます。市は「天地人博覧会」「直江兼続公伝世館」の建設、パンフレット

等の作製と選任職員3名を配置し全力を傾けているのが伺えるが、市民の盛り上がりは今ひとつ見えてこない…。

坂戸城、雲洞庵、樺野沢城、毘沙門堂、浦佐城とすばらしいものがあるが、訪れた人に地元がどのように対応するかにかかっている。トイレは、駐車場は、案内人は、特産物は、休憩場所は…と地元で考え地元で対応することが活性化の原点です。

浦佐西山地域活動報告



3月23日普光寺本堂にて、県市からの出席を得て関係者55名が集まり19年度の活動報告がなされる。

報告会は来賓あいさつ（県都市政策課宇佐美氏・市都市計画課星野課長）の後、午後4時まで、約2時間にわたって報告され、静かな中にも熱のこもった会議となり、同一地域での活動に関係者の連帯感が高まった。報告は①市より歩車共存社会

実験について②（株）グリーンシグマから毘沙門通りワークシヨップの取り組み（毘沙門通りの再生イメーシ）③浦佐西山協議会より（33番観音巡りの整備と里山復興に向けて）④NPO魚沼伝習館より（西山地域の環境調査活動を通して）⑤裸押し合記録保存実行委員会（記録収集を通じて地域づくりを）⑥おせつたいの会（毘沙門堂を訪れる人にお茶でのおもてなし）⑦浦佐城・薬師様の会（城址の復興整備と管理）⑧上山城・秋葉様の会（4/12に設立をする）⑨本町商店会（最後のチャンスと位置づけ再生に向け取組みたい）

今年度も毘沙門通りワークシヨップの継続、誰もが集まれる事務所の設置や、農産物直売所の出店および毘沙門通りとの関連からCKK工場跡地の利用計画を6月頃までにまとめたいと結ぶ。

●編集後記●

桜前線が一気に北上しこの便りが届くときには、ここ魚沼の地も春爛漫。桜の開花と同時にコシヒカリの種まきが最盛期を迎えます。美味しいごはん（米）は苗半作から…。

4月に卒が結婚しました。まさか一緒に住むとは思ってなかったので、嫁さんに感謝です。子どもは多い方がいいと言っている嫁さんにこれ又感謝です。そして、卒のコンビニ通いと喫煙を止めさせれば嫁さん万歳です。にぎやかな我家に遊びに来て下さい。